

【入選】「みんなと一緒に食べる給食」

梨の里小学校 増田 吏紗

私には幼いころからアトピー性皮膚炎という病気があります。薬をぬるほどひどい症状では無いのですが、冬になるとかゆくなりかきむしってしまうことがあります。四年生の冬、母が、

「食事を変えることで症状を軽くすることが出来るかもしれないんだけど、やってみる気ある？」

と言いました。私はなやみました。食べる物を変えてかゆくなるならぜひやってみたいと思いましたが、給食の時間にお弁当を食べるなんて、みんながどう思うだろう、という不安な気持ちもありました。色々考えて、先生にも相談した結果、まずは一カ月挑戦をしてみることにしました。

始める前に先生がクラスのみんなに説明をしてくれました。初めてお弁当を持って行った日、近くの席の子がうらやましそうに話しかけてくれたおかげで、いつも通りの楽しい給食の時間になりました。始めて数日はお弁当の中身が楽しみだったり、苦手なものが入っていない安心感で楽しく過ぎて行きました。でも一週間、二週間と過ぎて行くうちに、だんだんみんなの給食がうらやま

しくなりました。これまで、学校を休んで楽しみにしていたこんだてが食べられないことはあったけど、学校に居るのに給食が食べられないことは一度もありませんでした。みんな同じものを食べて感想を言い合ったり、嫌いなものでもがまんして食べたりしている姿をみて、何となくさみしい気持ちになりました。おかわりじゃんけんも、例えば私が食べられるメニューでも今は最初から参加する権利がありません。それが分かっても、ついつい朝、家で給食のこんだて表を見てしまうようになりました。少しでもみんなと同じメニューにできないか、と母にお願いをして用意してもらったこともありましたが、今までは毎日当たり前に食べていた給食。メニューに好きなものが出るかどうかを楽しみにしている程度の考えでした。でも今は、学校でクラスのみんなと一緒に食べるのが一番大切なんだという事が分かりました。

私の食事りよう法は、結局二カ月間続きました。つらい時もあったけど、食事りよう法をしたおかげで、毎日当たり前だと思っていた給食の、

「おなかいっぱい。」以外の大切さを知る事ができました。

中学を卒業するまでの三年半。毎日の給食をクラスのみんなと楽しく食べていきたいです。